

平成7年10月23日

関係各位

鶴鳴女子高校バスケットボール部
監督 山崎純男

平成7年度長崎地区新人大会結果報告

のことについて、下記のとおり報告いたします。

記

- 1 試合結果 別記
- 2 試合DATA 別紙
- 3 所感

国体の帰り、フェリーが新門司に着くのが21日の朝7時20分。それから急いで第1試合に間に合うかどうかわからないので、事前に電話で三根コーチに頼んでおきました。だから、第1試合は三根コーチの采配により残り9人の1年生で戦ったわけです。

試合の様子は逐一携帯電話に報告されてきました。最初の電話が前半8分を経過したところ。報告では20対15で負けているというのです。その時私たちは、高速道路の嬉野を過ぎたあたりを通過中。ちょっと焦って時計を見ながら「後半には間に合うかなあ」などと考えたりしました。しかし、ハーフタイムの電話では34対27でリードして終了という報告がありました。それでみんな安心し、国体の会場で転倒してアキレス腱を切り、諫早の宮本外科に入院している川崎会長を見舞い、ゆっくり午後の試合に間に合うように帰りました。

この試合では、渡辺・椎山・浦松・三島・松下の1年生にキャリアを積んでもらうのが最大の目的でした。ところが、最もキャリアを積ませたかった椎山が決勝戦の前の練習中に捻挫。初日には私が到着する前の試合で2年生の池田が膝を傷め、この2名は決勝戦には出せません。

しかし、椎山を抜いた上記の1年生に2年生の岡を入れたメンバーだけで決勝の後半15分間戦わせたところ、この5人で戦った間の得点も30対23で純心のレギュラーに勝っています。特に、1年生のときは初日と比べたら別人のようにうまくなっていました。これは大収穫です。

これからは、暮れの選抜大会へひとつは照準を合わせ、もうひとつの照準は、新チームで戦う11月の県新人戦、1月の九州春季大会二次予選、2月の九州春季大会に合わせます。その両方に主戦力として出場しなければならない、工藤・大野・肘井・浜本・大滝・副田はちょっと忙しくなります。

平成7年度 長崎地区高等学校バスケットボール新人大会

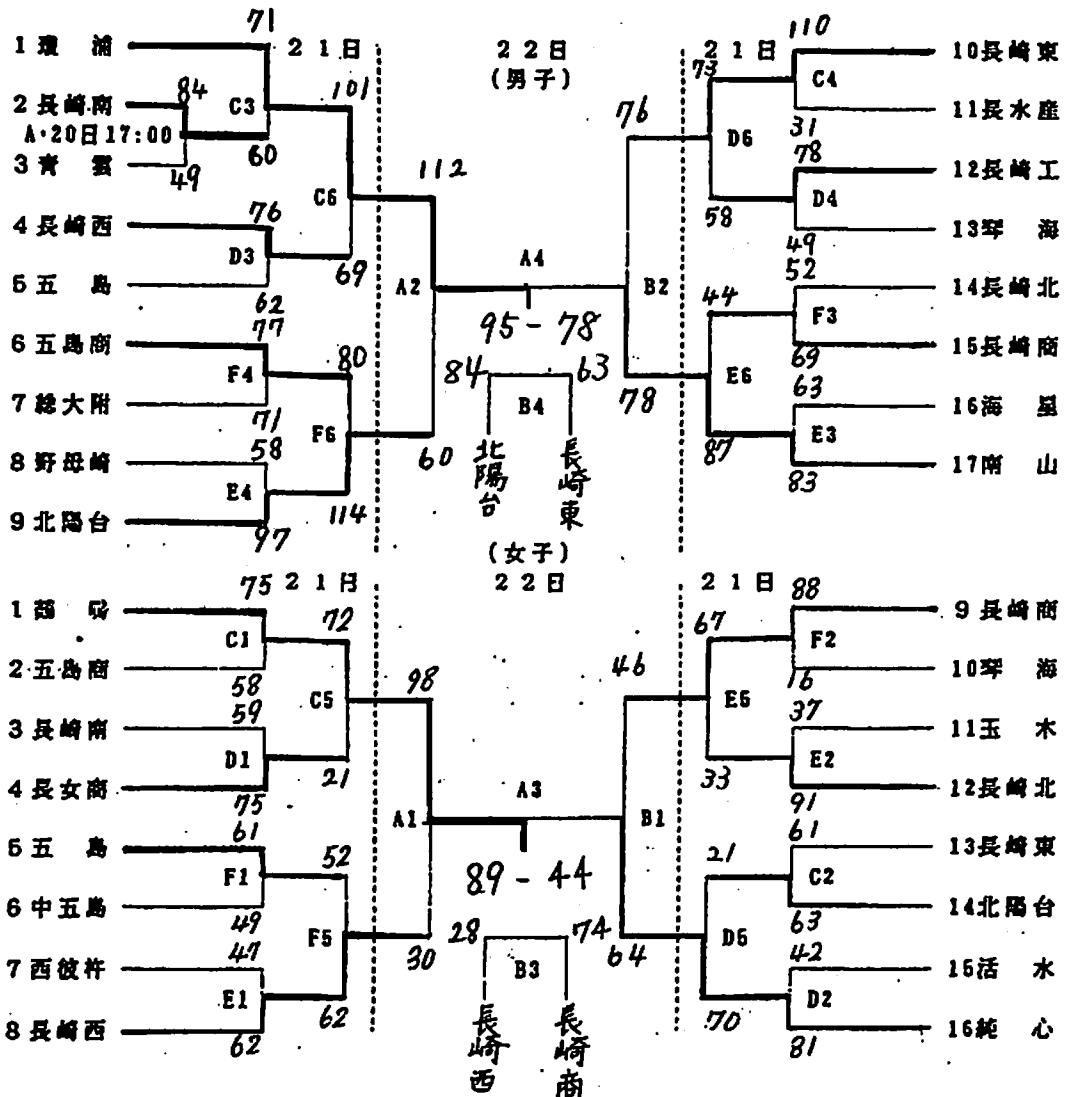
1. 期 日 平成7年10月21日(土)・22日(日)

2. 会 場 A・Bコート長崎南山高等学校体育馆 (22日)
C・Dコート長崎東高等学校体育馆 (21日)

3. 試合時間 E・Fコート長崎北高等学校体育馆 (21日)
(21日) (22日)

① 9:30~④ 14:00~	① 9:30~
② 11:00~⑤ 15:30~	② 11:00~
③ 12:30~⑥ 17:00~	③ 12:30~
	④ 14:00~

4. 組合せ



5. その他のア) 1日の第1試合のオフィシャル

長崎東 会場 長崎東
長崎北 会場 長崎北

*2日目のオフィシャルは後日、連絡します。

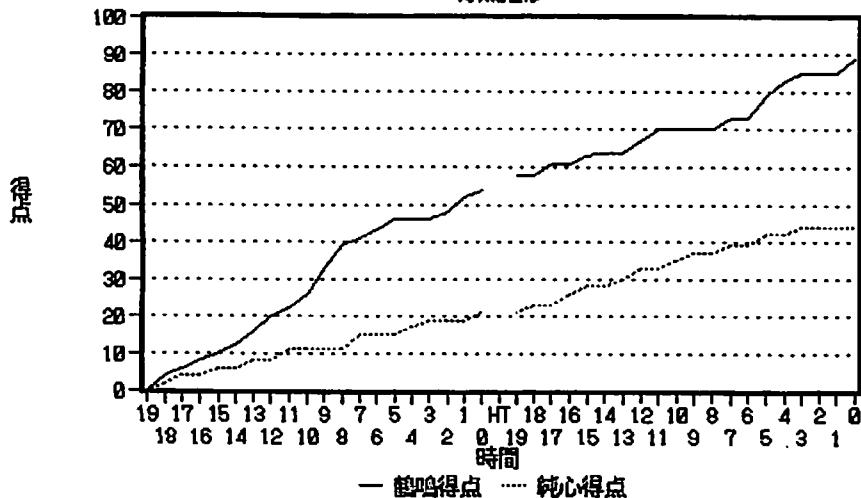
イ) 1日の勝ちチームは次の試合のオフィシャルをすること。

ウ) ベンチは、オフィシャル席に向かって右側を若番号とし、ユニホームは淡色とする。

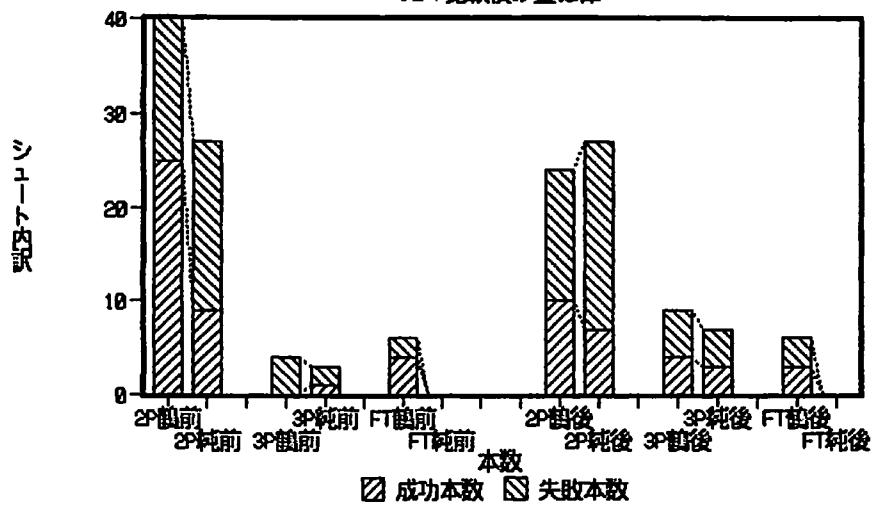
エ) 上ばき・下ばきの区別をして、体育馆・校舎等を汚さないこと。

オ) 貴重品は、各チームで責任をもって保管すること。

H7地区新人決勝
得点推移

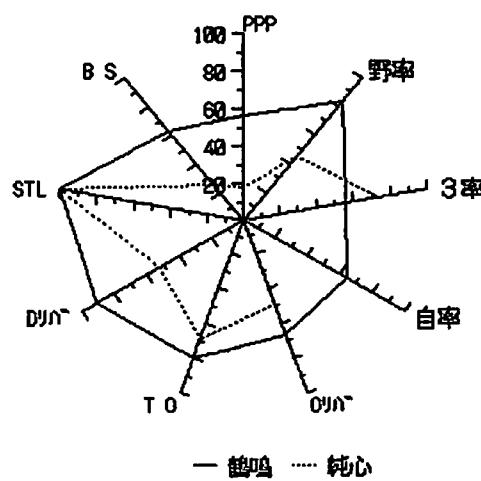


H7地区新人決勝
シュート比較積み重ね棒



H7地区新人決勝

レダーチート



平成7年11月10日

関係各位

鶴鳴女子高校バスケットボール部
監督 山崎純男

平成7年度長崎県高等学校駅伝競走大会結果報告

のことについて、下記のとおり報告いたします。

記

- 1 期日 平成7年11月9日
2 場所 南高来郡小浜町公認マラソンコース(21.0975キロ)
3 出場者 1区 6000 メートル 大滝まゆみ バスケット部
2区 4097.5メートル 大野慎子 バスケット部
3区 3000 メートル 櫻田綾香 バスケット部
4区 3000 メートル 大久保光子 陸上部
5区 5000 メートル 工藤雅子 バスケット部

3 順位 第17位

4 歴史

	1区 6000m	2区 4097.5m	3区 3000m	4区 3000m	5区 5000m
4年	松尾朋子バケット	藤原由理バケット	川原涼子バケット	浜口典子バケット	池田千代バケット
7位	22'29" (闊8位)	16'14" (闊9位)	11'21" (闊7位)	11'42" (闊10位)	20'10" (闊15位)
5年	松尾朋子バケット	山口美由紀バケット	浜口典子バケット	一瀬由貴子バケット	川原涼子バケット
7位	22'17" (闊8位)	15'16" (闊7位)	11'41" (闊16位)	11'25" (闊5位)	20'11" (闊15位)
6年	山口美由紀バケット	野本裕子 陸上	森沙弥香 陸上	池田紫乃 陸上	三浦由美バケット
8位	22'46" (闊15位)	14'52" (闊6位)	11'17" (闊8位)	11'59" (闊13位)	19'36" (闊12位)
7年	野本裕子 陸上	神崎景子バケット	池田紫乃 陸上	工藤洋子バケット	森沙弥香 陸上
9位	23'12" (闊15位)	14'44" (闊3位)	11'23" (闊7位)	11'35" (闊8位)	19'37" (闊12位)
6年	森沙弥香 陸上	櫻田綾香バケット	大滝まゆみバケット	大野慎子バケット	工藤雅子バケット
5位	22'46" (闊12位)	16'11" (闊11位)	11'06" (闊5位)	11'12" (闊5位)	18'53" (闊6位)
7年	大滝まゆみバケット	大野慎子バケット	櫻田綾香バケット	大久保光子 陸上	工藤雅子バケット
17位	23'30" (闊22位)	16'23" (闊16位)	11'44" (闊17位)	11'52" (闊16位)	19'08" (闊9位)

5 所感

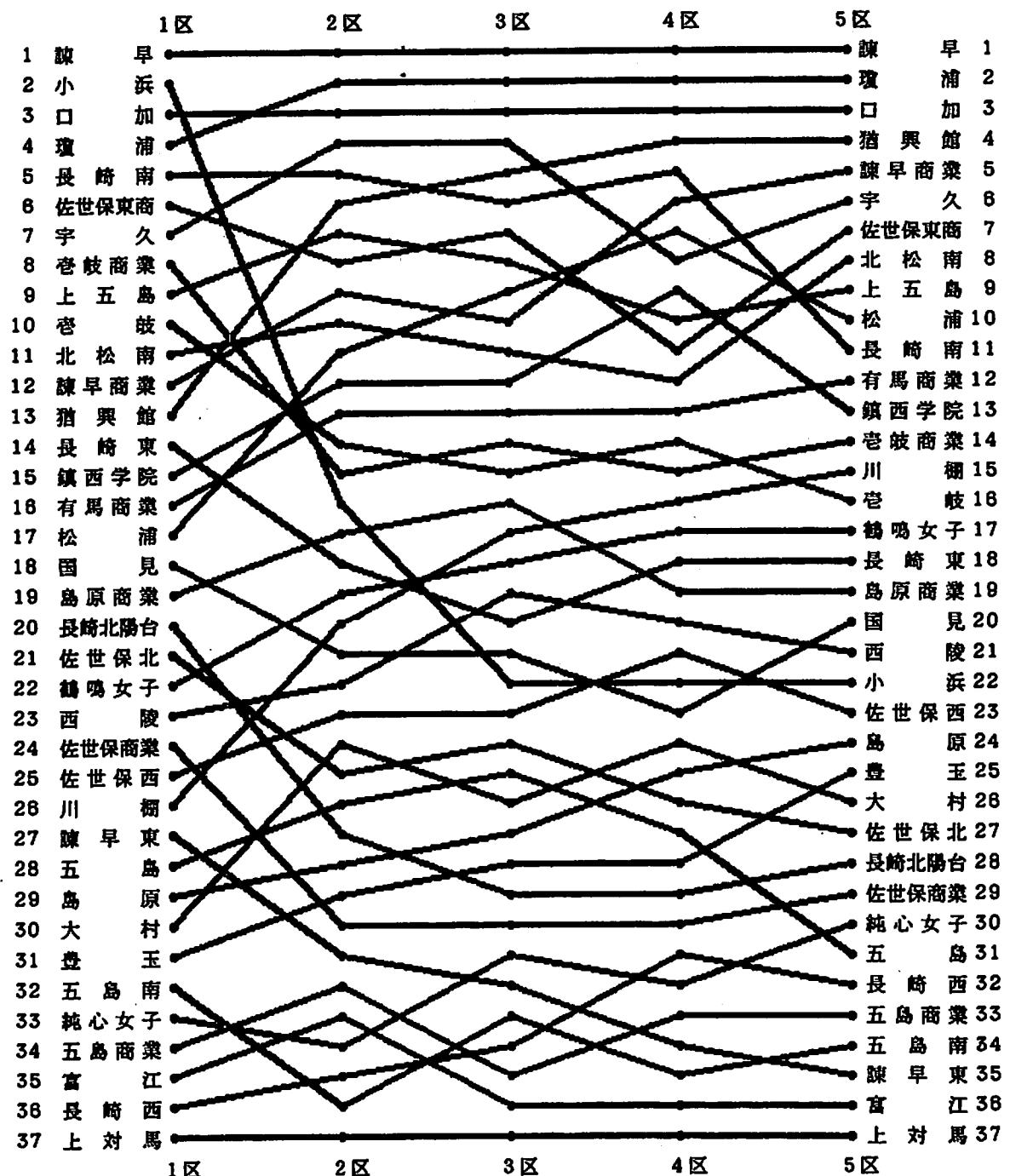
バスケット部からの出場メンバーは昨年とまったく同じ4人です。しかしタイムは昨年より2分40秒あまり悪くなり、順位はご覧のように大幅ダウンです。理由は筋力トレーニングによるものと思われます。

昨年まで体力トレーニングの内容はグラウンドを走らせる心肺機能の訓練が主体でしたが、今年2月の九州大会決勝で中村学園に大敗した時、体重のなさと筋力のなさを痛感したので、体力トレーニングの内容を心肺機能訓練から筋力トレーニングに切り替えました。

まず、2月から9月中旬までは負荷を軽くして行なう筋のスピード訓練を主体とし、その後負荷を重くして筋力そのものを向上させる訓練を現在続けています。

だから、今年は昨年までに比べて走りの回数が極端に少なくなり、大会前の試走やタイムトライアルでもいい記録は出ませんでした。選手はほんとにがんばったのですが…。

[順位経過]



平成7年11月22日

関係各位

鶴鳴女子高校バスケットボール部
監督 山崎純男

平成7年度長崎県高等学校新人体育大会結果報告

のことについて、下記のとおり報告いたします。

記

- 1 試合結果 別記
- 2 試合DATA 別紙
- 3 所感

大会初日に私を激怒させる出来事が発覚しました。外部から見ればたいした事ではない事でしょうが、私にとってはがまんならない事だったので、1日目の夜は怒りがこみ上げてきて眠れませんでした。

このような気持ちを抑えたままベンチをするのはいやだったので、2日目の朝私はみんなを集めて一言述べました。「昨夜、試合が終ったらお前たちを半殺しにするほど殴ってやろうと思った。が、一夜空けると少し気持ちも治まった。今、お前たちにとって大切なことは、そのことを嘆くことではなく、『だから挽回しよう』と思って取り組むことだ。俺もそのつもりでベンチをやる。そのことを頭において試合をやれ」

しかし、私の剣幕に押された選手達は気持ちばかりが空回りします。いやなことがあっても、昔の私のようにベンチでふてくされたり、コート上の選手を罵倒したりはしませんが、やはり試合というのは心身ともに健全な状態でしなければうまくいかないものです。試合内容は今年度最低の試合でした。

翌日の朝練習の時私は選手を集めてまた言いました。

「雨降って地固まるということわざがある。今回ることは、『順調に何事もなく暮れの選抜大会まで事が進んでいたら、選抜大会ではインターハイのような試合になったかもしね。だから、今回ることは自分を見直すいいきっかけだった。いや、いいきっかけにしよう』そう思え。練習メニューももう一度基本から洗い直してやってみよう」

その後はもう普通通りの練習です。

今年と来年のチームは、私のコーチ人生で2度と創ることのできないチームかもしれないと私は思っています。それは、理解力のある選手に恵まれたからです。だから、今回のこともきっと選手たちはチームをいい方向に向け直す材料してくれると思います。私自身も、選抜大会では皆様からたくさんの拍手が貰えるチームに仕立て直してお目にかけたいと思っています。

今回の試合は一年生の査定が一つの目的でしたが、これから伸びるかなあと思っていた浦松が2日目の午後の試合で転倒した時手首を骨折してしまいました。3ヶ月はかかるでしょう。副田と椎山は上級生の中で揉まれながら強くなっていくと思います。渡辺はいいセンスを持っているのですが、バスケットを理解するのにまだ時間がかかるでしょう。三島と齊藤は自分自身を真剣にチェックすることからやり直さなければなりません。行動に、アドバイスしてやったことを意識しているのかいないのか疑問に思うようなことがしばしば目につきます。

決勝戦では工藤と大野が衝突し、大野の鼻が曲りましたが、その場ですぐ修復しました。きっと、挽回を焦って意気込み過ぎたのかもしれません。

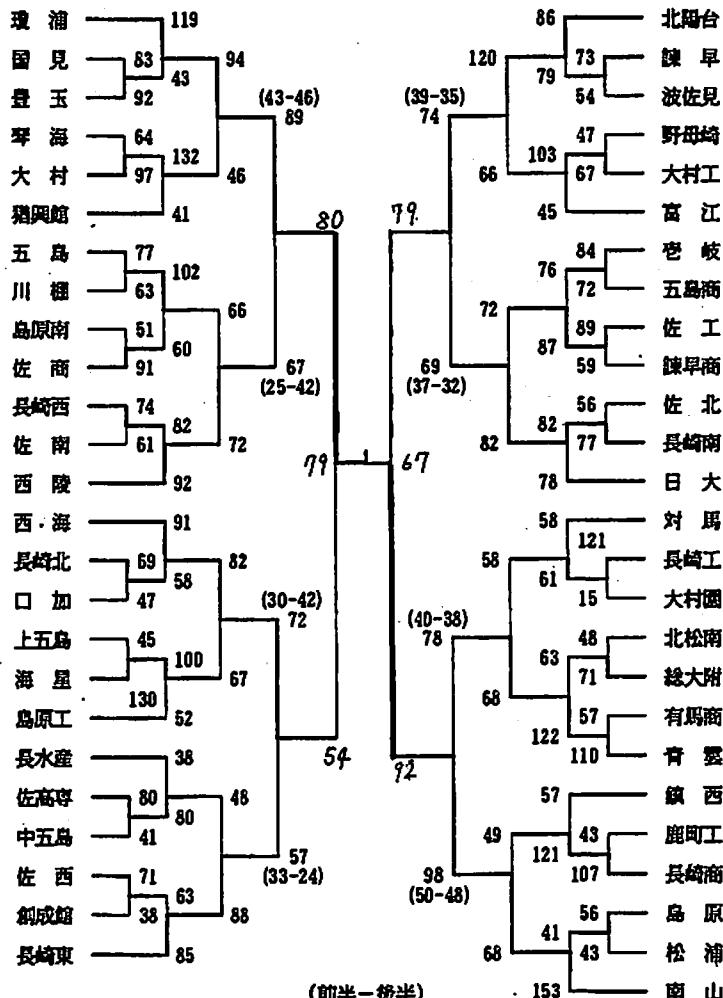
平成7年度 長崎県高等学校新人体育大会バスケットボール競技 成績表

1. 期日 平成7年11月18日(土)・19日(日)・20日(月)

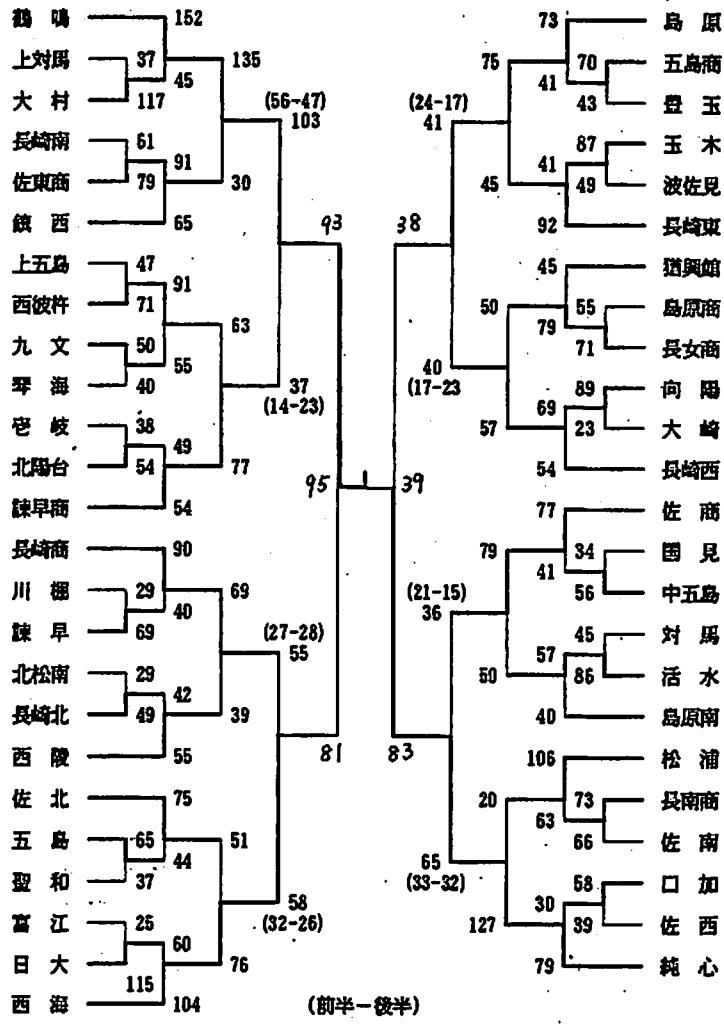
2. 会場 長崎商業高等学校、他

3. 成績

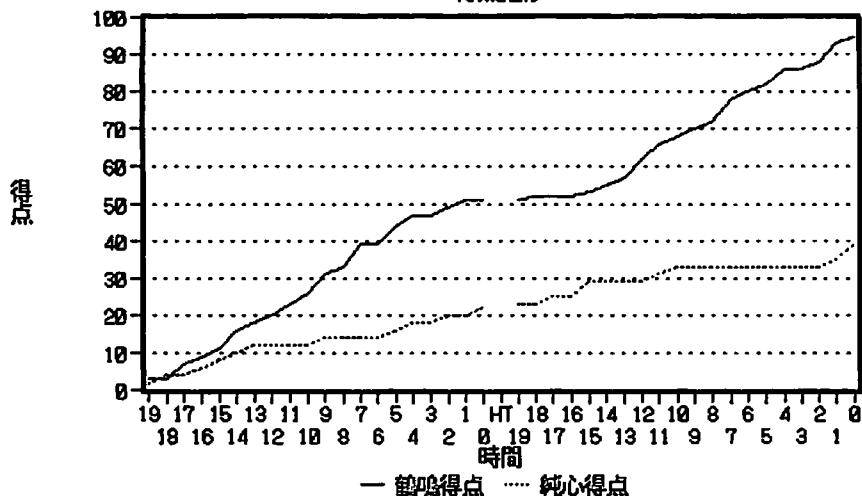
(男子) 優勝-瓊浦 2位-南山 3位-西海・北陽台



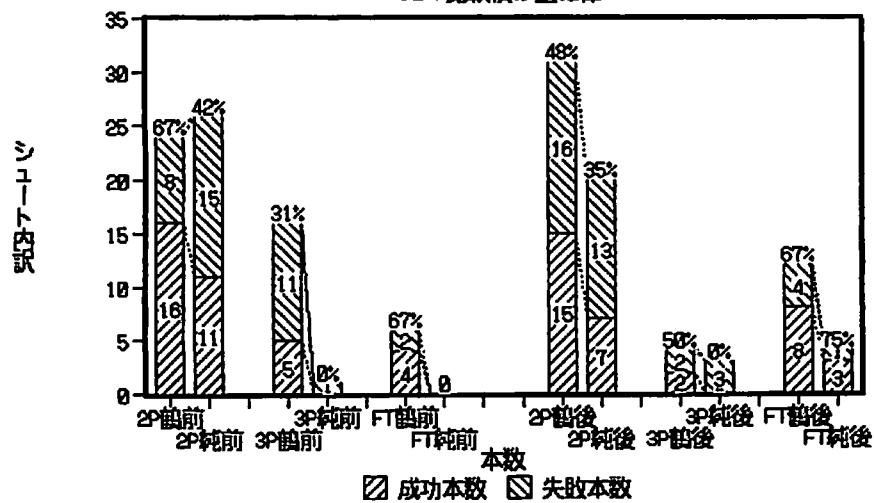
(女子) 優勝-鶴鳴 2位-純心 3位-西海・島原



H8県下新人決勝
得点推移

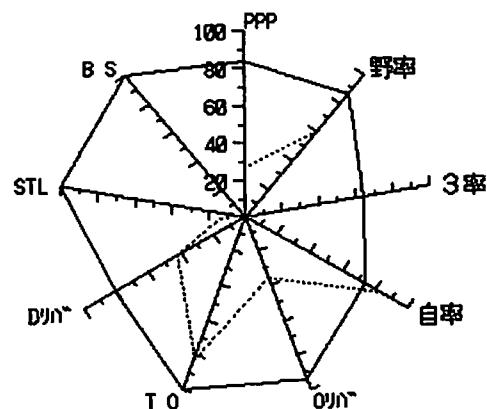


H8県下新人決勝
シュート比試積み重ね棒



H8県下新人決勝

レーダーチャート



— 鶴鳴 …… 純心

平成8年1月8日

関係各位

鶴鳴女子高校バスケットボール部
監督 山崎 純男

'95 ウィンターカップ結果報告

のことについて、下記のとおり報告いたします。

記

- 1 試合結果 別紙
- 2 試合DATA 別紙
- 3 所感

21日の夕方と22日は事前合宿でジャパンエナジーにお世話になりました。この合宿には全国各地から10チームほど集まっていました。その中の3チームと練習試合をさせてもらいましたが、調子は良くもなく悪くもないといった状態でした。

23日。午前中が開会式。鶴鳴は最終試合で夕方5時トスアップ。待ち時間が長いので身体が動くかどうか心配でしたが、試合前の練習が始まるとそんな心配は吹き飛びました。動きがシャープでシュートは正確です。もちろん試合もそのままの調子で完勝しました。

翌24日が今大会最大のヤマ中村学園戦です。かなり緊張して臨みましたが、選手の動きは前日同様シャープで試合開始からずっと主導権をとって試合をすすめることができました。ところが、前半の終り頃から動きが悪くなり、それが後半になっても回復せず、後半の中盤に逆転されて負けてしまいました。

動きが悪くなった原因是、選手交替がうまくいかず休養の取らせ方が思うようにならなかつたからです。鶴鳴のバスケットは動きの激しいバスケットですから交替やタイムアウトのタイミングを間違うとこのような結果になります。

なぜ交替がうまくいかなかったかというと主将の櫻田のファウルトラブルです。前半開始早々連続3反則で、後半も充分なプレイができないまま5反則退場になってしまいました。それで、ローテーションがうまくいかなくなりました。

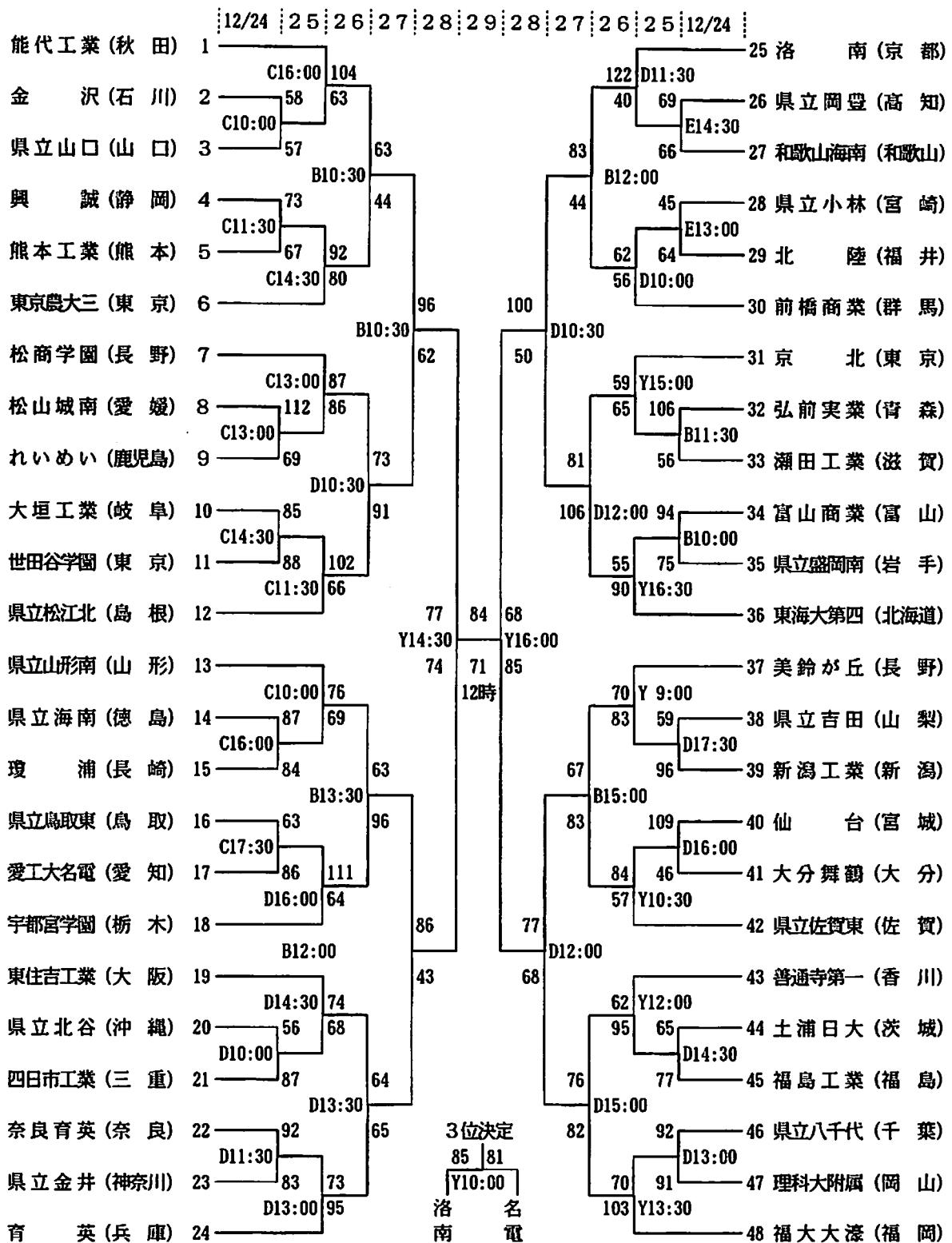
翌日、名短が昭和学院に負け、その昭和学院が次の日に石川の津幡に負けるという波瀾がありました。おそらく名短にも昭和学院にも第3者から見ていてもわからないような事情が何かあったのでしょうか。トーナメントの一発勝負に勝つというのはほんとうに難しいものです。

しかし、この1年を振り返って、選手にはほんとうに「ごくろうさま」「ありがとう」と言いたいと思います。思えば2月の九州大会の決勝戦で中村学園に94対46と、こども扱いにされて負けたチームが、国体の準優勝まで漕ぎつけ、さらにこの選抜では中村学園にほとんど互角の試合ができるまでに成長したのですから。

24日に私達の試合は終りましたが、28日までジャパンエナジーで合宿をさせてもらって帰ってきました。合宿初日に「最終日はもしかしたら決勝戦を見にいくかもしれない」と選手に言いましたが、27日の夕方「見に行かないで練習する。来年は見て貰う側になりたいから」と選手に言いました。

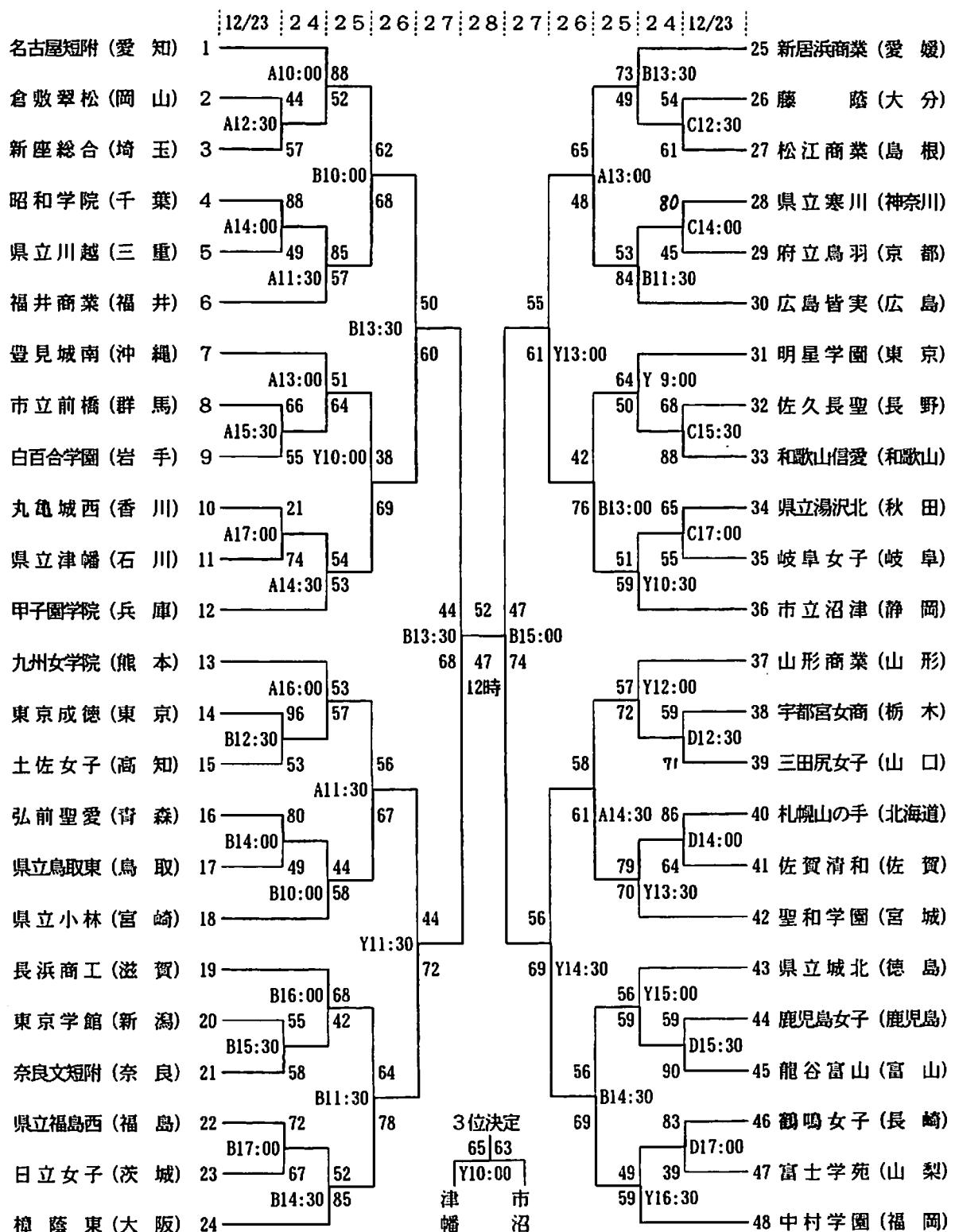
なぜ気持ちが変わったかと言うと、名短が負けたからです。誰が見ても今年も来年も名短がどこかのチームに負けるなど想像がつきません。それほどメンバーが揃っているのです。それが負けたのです。「名短でも負けることがある。ということは、我々にも充分チャンスがあるということだ」本気でそう思うのは思い上がりでしょうか?

’95 ウィンターカップ男子組合せ



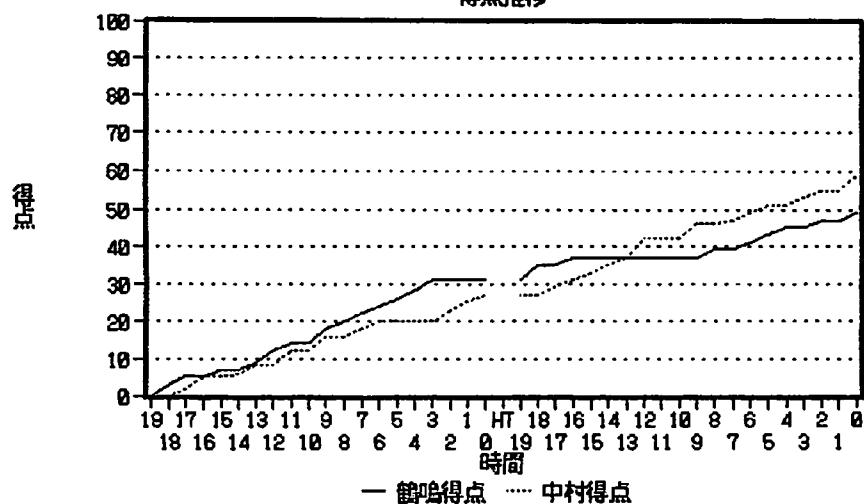
会場 A B C D E = 東京体育馆 Y = 代々木第二体育馆

’95 ウィンターカップ女子組合せ



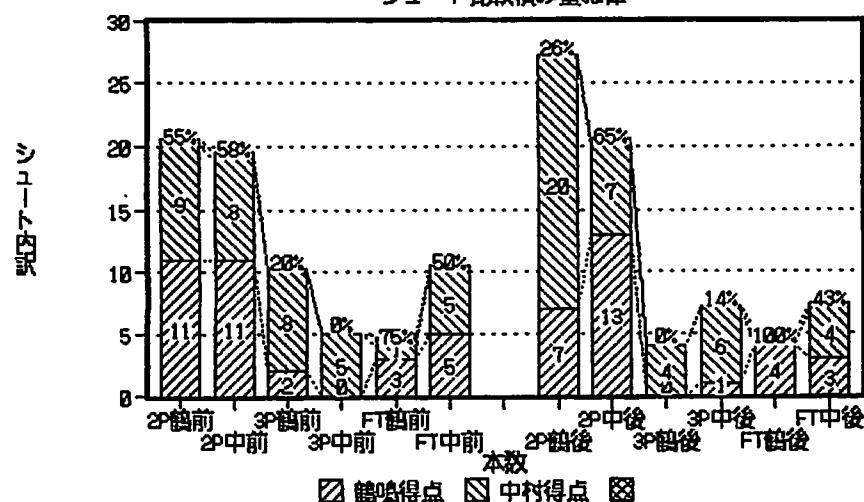
H7全国選抜2回戦

得点推移



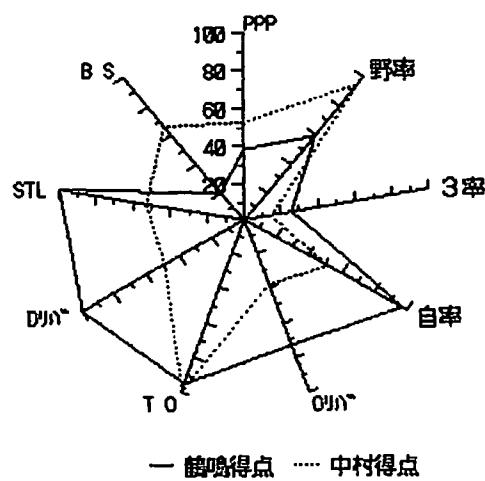
H7全国選抜2回戦

シュート比較積み重ね棒



H7全国選抜2回戦

レーダーチャート



平成8年1月16日

関係各位

鶴鳴女子高校バスケットボール部
監督 山崎 純男

平成7年度九州高校春季選手権大会長崎県予選会結果報告

のことについて、下記のとおり報告いたします。

記

- 1 試合結果 別紙
- 2 試合DATA 別紙
- 3 所感

1月4日から7日までは、近県からの高校生や県内の中学生が相次いで来校し、その相手をするのに終始しました。8日は月曜日で体育館が使えない日なので、翌9日の火曜日からが自分たちだけの練習になります。

私はこの日から練習内容をがらりと変えました。練習メニューはすべて、運動量が多くスピードを強調するものばかりです。平成8年度の全国大会では、トップランクのチームに善戦するだけではなく、それらのチームを食いたいからというのが私の意図です。

そんなわけで、強化練習が始まってから5日目がこの大会。疲労がピークに達し、選手の動きは鈍く、正確さを欠いたプレーが続出しました。その事については1回戦の試合のタイムアウトの時に私は選手に言いました。「動きが鈍い。それは疲れが溜まっているから仕方がないんだ。だから、いつもなら成功するはずのプレーがボロッと失敗するケースがあると思う。しかしがつかりするな。あとをていねいにやれ」

もちろん、今回のように疲れを残したまま来月の九州大会に臨むようなことはしません。とりあえず2月3日まではみんなにがんばってもらって、その後1週間は軽いメニューで調整し、疲労を抜いてから九州大会に臨みます。その後また春休みまで選手にはひとふんぱりしてもらおうと思っています。

新しい練習が始まっていますから1年生への追及が厳しくなっています。その理由は、1年生の中には事態を敏感に感じない選手がたくさんいるからです。「1年生だもん、まだ無理さ」などと言わないでください。もう入学して1年が過ぎようとしているのです。それなのに一向に顔つきが変わってきません。

データの中の選手へのコメントの欄に、昨年のこの大会で私が言った「勝負に挑む人間にふさわしいかどうか」ということばが再び引用されていますが、そういう意味で合格点をあげられるのは、工藤・大野・浜本の3人だけです。2年生ではあるけれども肘井と大滝だってまだまだ、1年生に至ってはまだ何もわかっていないという状態です。それを、3月までに遅くなったり鶴鳴に仕上げなければならないのです。

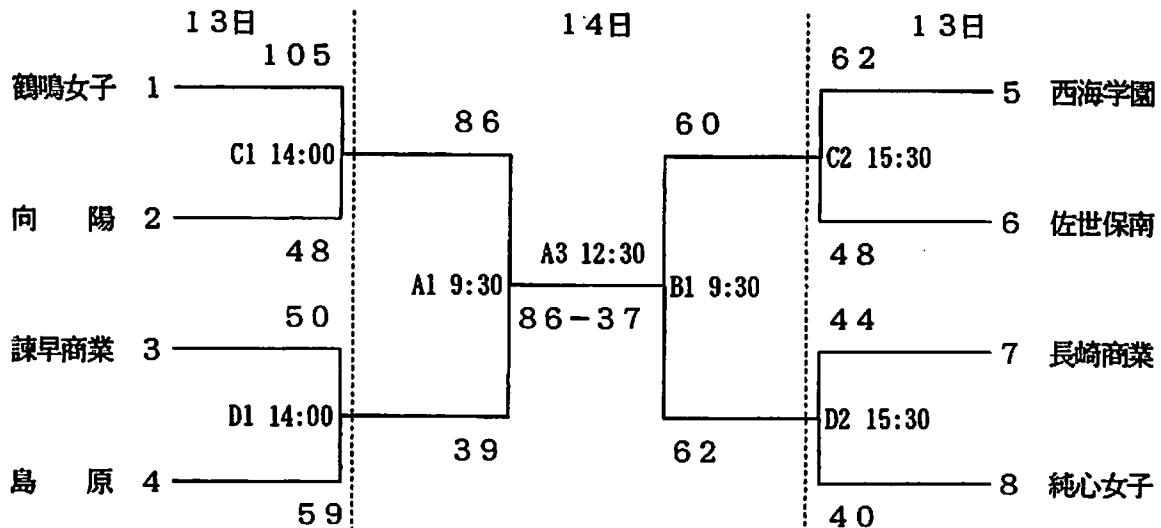
さて、もう何年もがまんしていましたけどここで言わせてもらおうと思います。

県内で試合をする時私はいつも、不法(illegal)な手の使い方・不法なスクリーン・不法なステップ・不法なブロックアウトなどを使用する選手が多いのが気になっていました。さらに気になるのは、それらがたまたま起ったのではなく、通常の練習でもチェックされていないのだろうと思われるケースが多いのと、審判もそれとは気付かずに試合が流れているケースが多い事です。

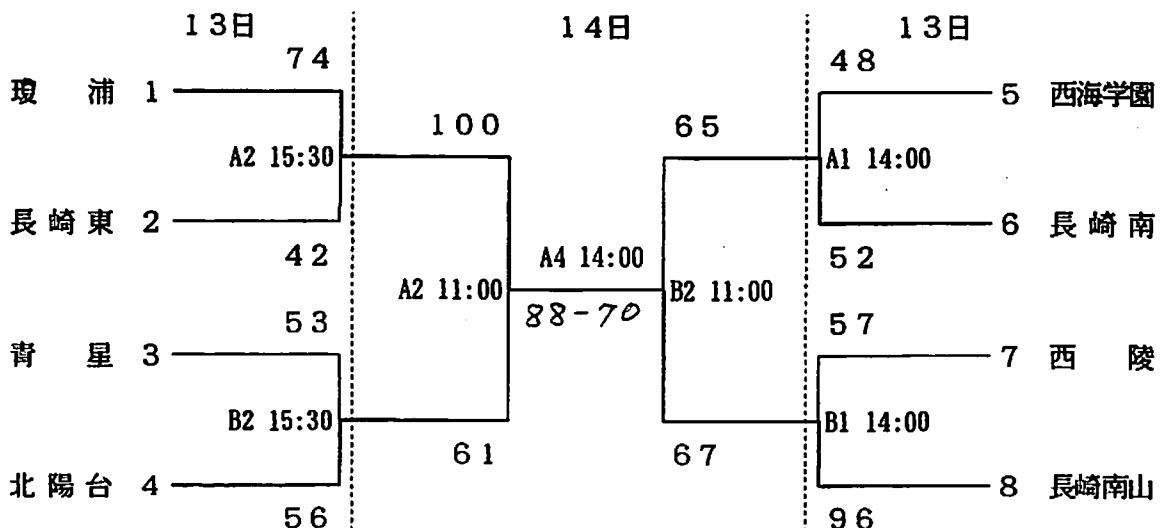
ルールを知らずにいくら練習してもその成果は上がりません。このような事をなくすには、まずコーチと審判がしっかり勉強し、そして根気強く選手を指導していくなければならないと思います。そうしなければ、たとえ長崎代表になっても対外試合でいい成績は残せません。

第26回全九州高等学校バスケットボール春季選手権大会長崎県二次予選会
組合せ

- 1 日 時 平成8年1月13日(土)・14日(日)
- 2 会 場 長崎市 A・B瓊浦高等学校 C・D 純心女子高等学校
- 3 組合せ
<女子の部>



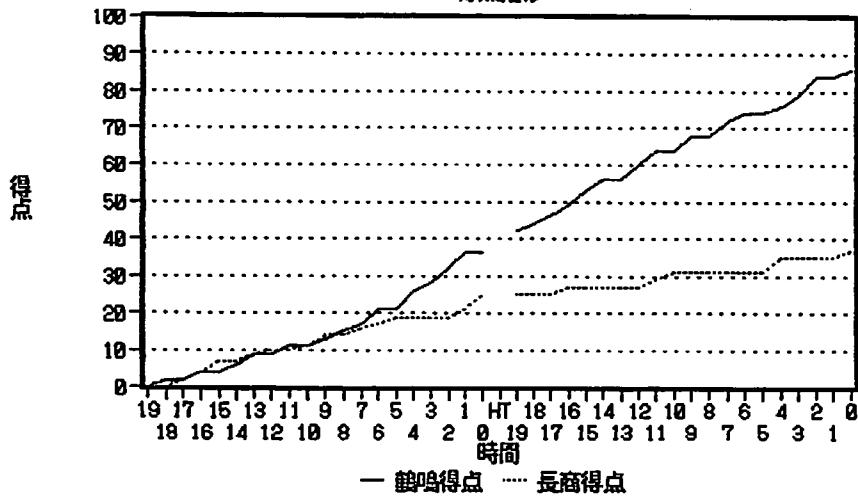
<男子の部>



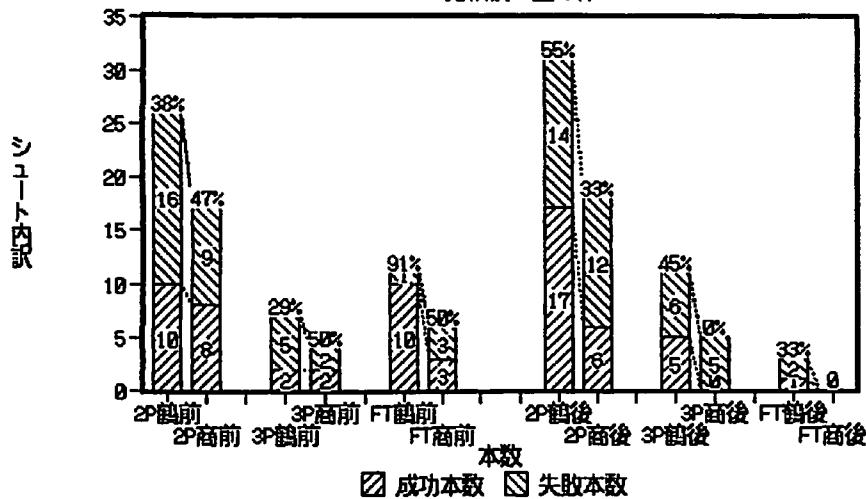
4 備考

- 1) ベンチは組合せ番号の若いチームがオフィシャル席に向かって右側とする。
- 2) ユニフォームは原則として組合せ番号の若いチームを淡色とする。
- 3) 上位2チームまで2月10・11の両日長崎市で開催される九州大会に出場できる。

H8九州二次決勝
得点推移

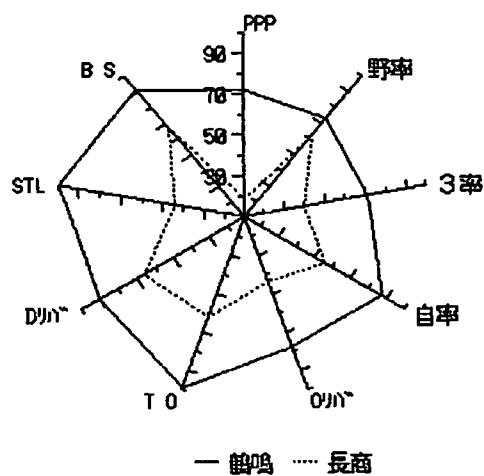


H7九州二次決勝
シュート比較積み重ね棒



H8九州二次決勝

レーダーチャート



平成8年2月13日

関係各位

鶴鳴女子高校バスケットボール部
監督 山崎 純男

平成7年度九州高校春季選手権大会結果報告

のことについて、下記のとおり報告いたします。

記

- 1 試合結果 別紙
- 2 試合DATA 別紙
- 3 所感

予想通り九州女学院が決勝に上がってきました。大津が小林に負けたのは予想外でした。もっと予想が外れたのは沖縄勢でした。男女とも全滅です。大寒波が襲来したこと理由のひとつに挙げられると思います。なにしろ、沖縄勢が現地を飛び立った時は気温20℃。開会式当日には大雪が降り、大会初日は雪こそ降らなかったものの最高気温が4℃なんですから。しかし、北中城が負けたのは寒さのせいだけではなかったようです。バスケットが難でした。あれでは勝てないと思います。先の話になりますが今年の8月中旬に行なわれる九州国体は開催地が沖縄です。真夏に沖縄でやるのですから今回とはまったく逆です。インターハイが終ったら体育館にストップを持ち出して練習しなければならないかもしれません。

さて鶴鳴ですが、まずは2年生に「おめでとう」「おつかれさま」「よくやったね」と言ってやりたいと思います。特に工藤にはこの三つのことばを太文字で言ってやりたいです。それは、工藤が特に活躍したからではありません。工藤の気持ちに対してなのです。工藤以下2年生は昨年の国体と選抜ではよく働いてくれました。しかしそれも、安心して頼れる上級生がいたからです。今回はその上級生が全部退いての初舞台。工藤にとっては、櫻田が退いた後のキャプテンとして「みんなを引っ張っていけるだろうか」「私の判断に間違はないだろうか」等々、様々な思いを秘めての大会だったはずです。その気持ちに対して私は労いのことばをかけてやりたいのです。特に、鶴鳴は昨年から選手のサインによってディフェンスのチェンジングを行なっています。サインを出すのは、昨年が櫻田今年は工藤です。それも含め、きっといろんなことが工藤は心配だったに違いありません。

確かに、初戦の筑紫女学院との試合ではゾーンプレスを長くやり過ぎました。決勝のプレスオフェンスはおそまつでした。個人的には、肘井が決勝戦で5反則退場になってしまいました。このように、ひとつひとつ取り上げてみれば、練習では充分理解しているはずのことを判断ミスしたり、練習ではしっかりできるはずのことを失敗してしまったりして、未熟な一面が出ました。しかしそれらのほとんどが引き継いだ後の初戦という特殊な舞台がそうさせたことで、このメンバーで公式戦を積み重ねて行けば解決できるものだと私は思っています。

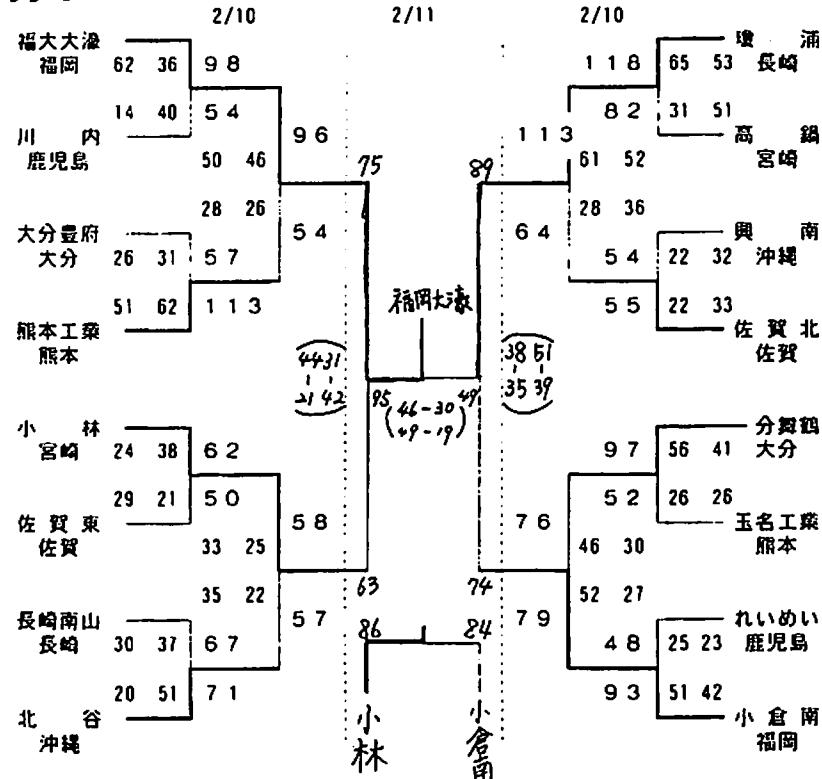
これからしばらく公式戦はありません。だから時間をかけて強化したいことをしっかり練習できます。そのうちのひとつは体力の強化です。昨年同様、今年も動きの激しいバスケットを展開しなければなりませんから、後半になってしまって動きの量とスピードが落ちない力を身につけなければなりません。このことは、大会前から選手にも言っていますから心の準備はできていると思います。しばらくお休みしていたグラウンドでのインターバルトレーニングも復活させます。

もうひとつは、バックアップの選手のレベルアップです。のままでは主力6人の負担が大き過ぎます。もちろん1年生にもがんばってもらわなければなりませんが、4月からの新入生も今年は急いで戦力化しなければなりません。

ここで平成7年度の案内と報告は終りです、平成8年度は4月中旬が初回のお知らせになると 思います。住所変更通知（特に卒業生）は名簿作成の都合上できるだけ早くください。

平成7年度第26回全九州高等学校
バスケットボール春季選手権大会
試合結果

男子



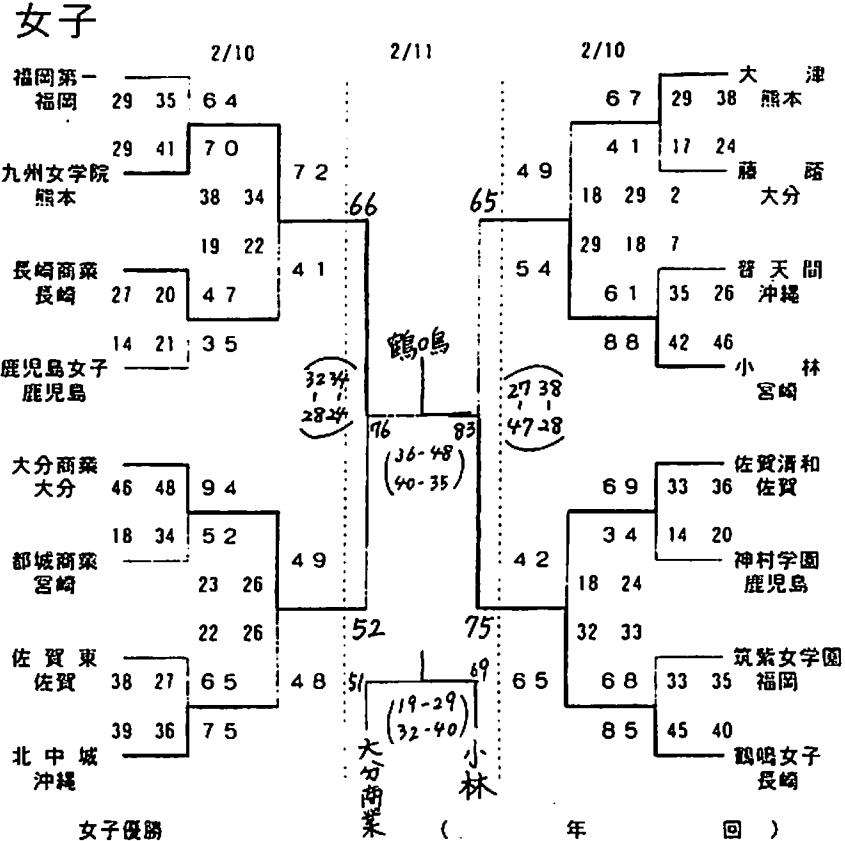
男子優勝

(年 回)

大会期間中本部	昼 三菱重工総合体育館	0958-62-8810
	夜 ニュー涌上ホテル	0958-45-1117
	携帯電話	030-320-6706

会場 2/10 9:30~
2/11 9:30~
男子 女子 男女 男女

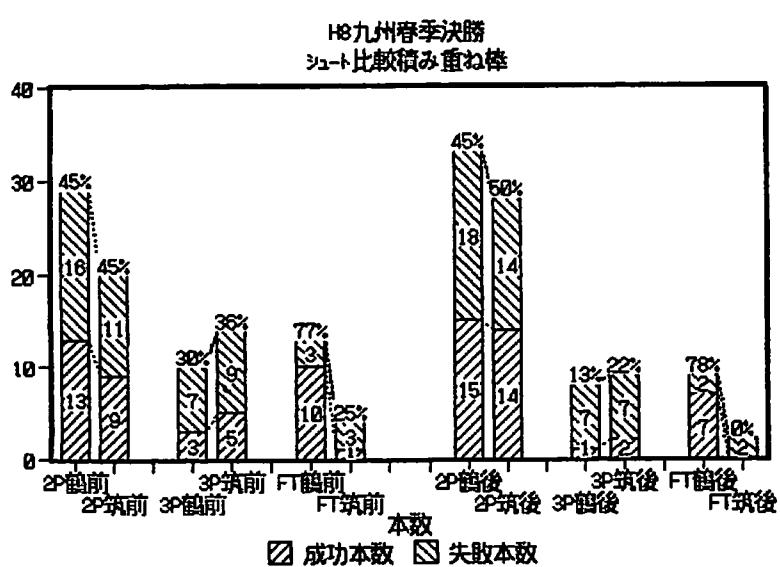
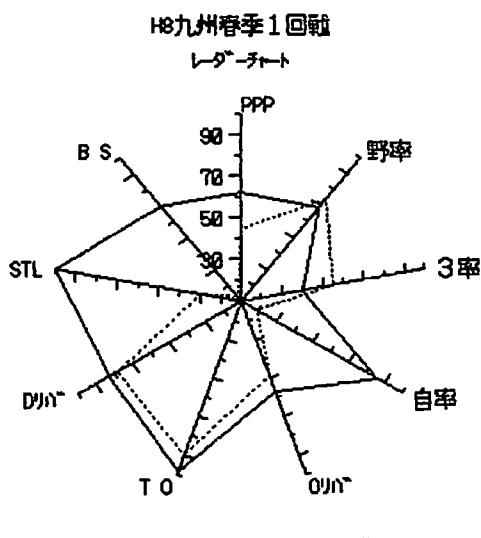
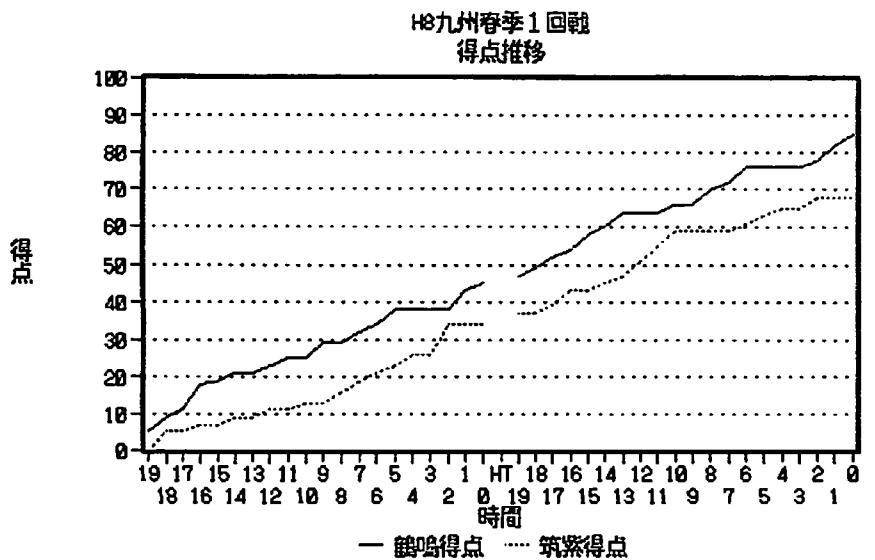
三菱重工総合体育館
長崎西高等学校
三菱重工総合体育館



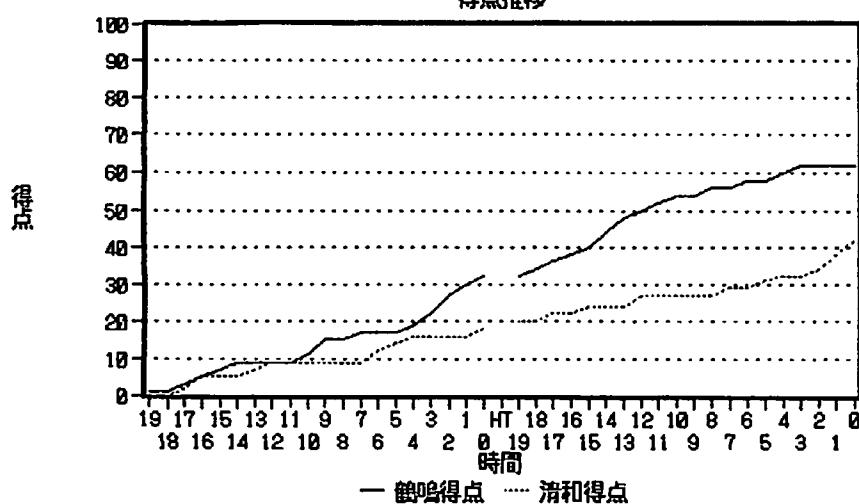
女子優勝

(年 回)

大会終了後問い合わせ	0958-62-8231
長崎西 後藤慶太	0958-61-7382
携帯	030-320-6706

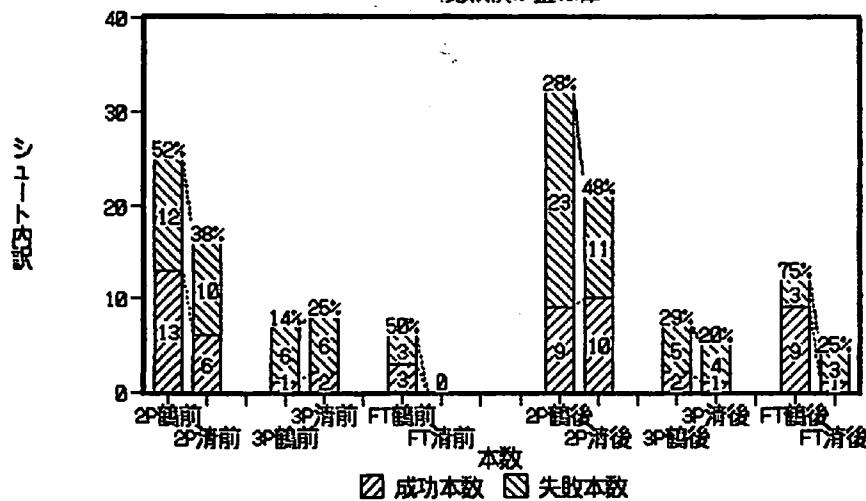


H8九州春準々決勝
得点推移



— 鶴鳴得点 …… 清和得点

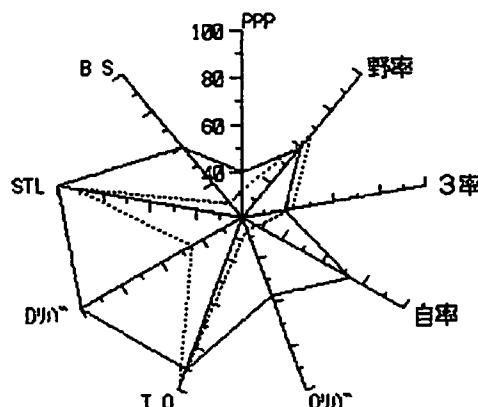
H8九州春準々決勝
シュート比較積み重ね棒



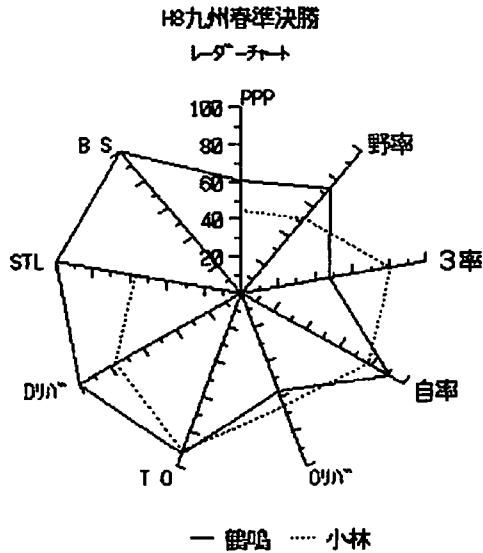
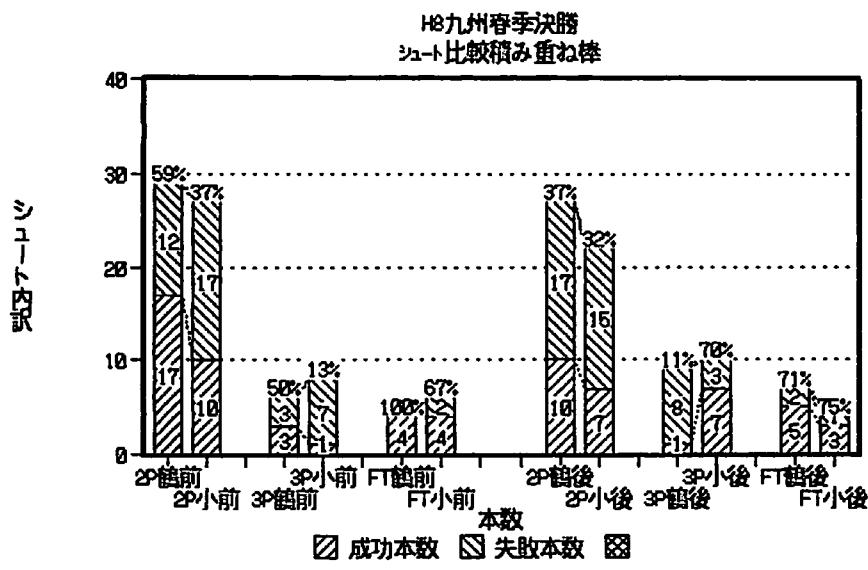
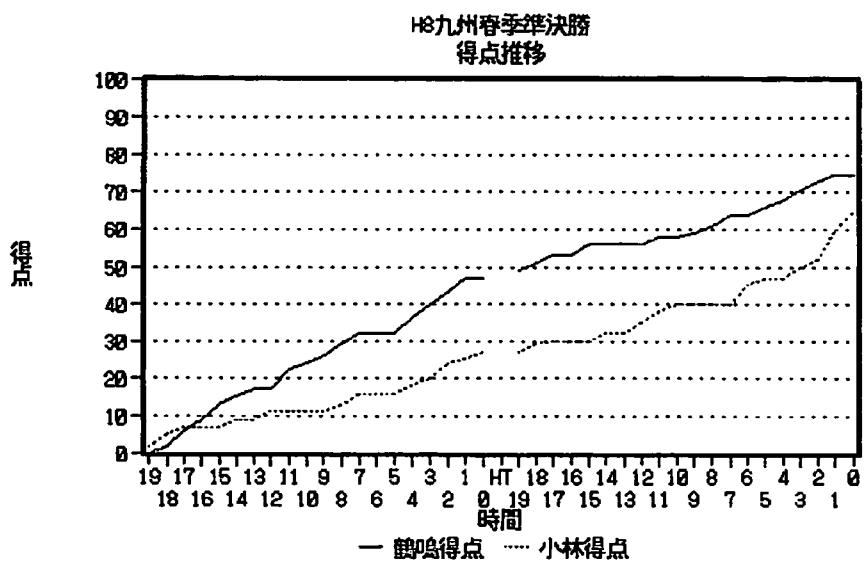
■ 成功本数 ▨ 失敗本数

H8九州春準々決勝

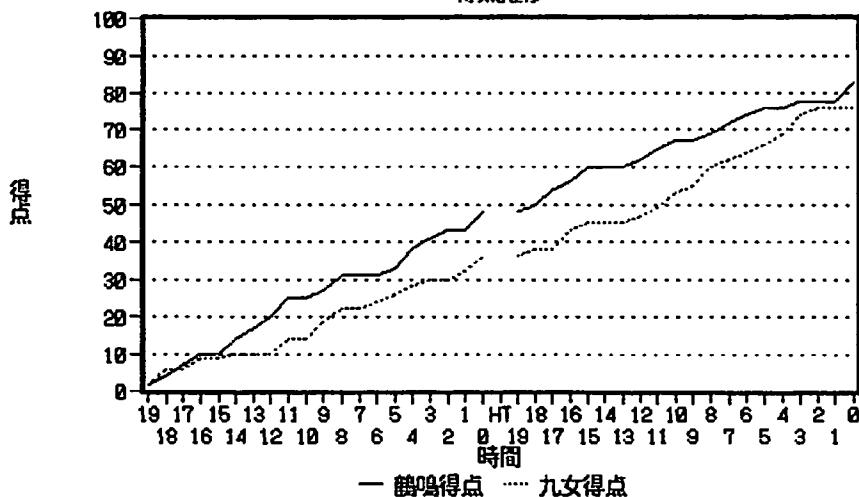
レーベルチャート



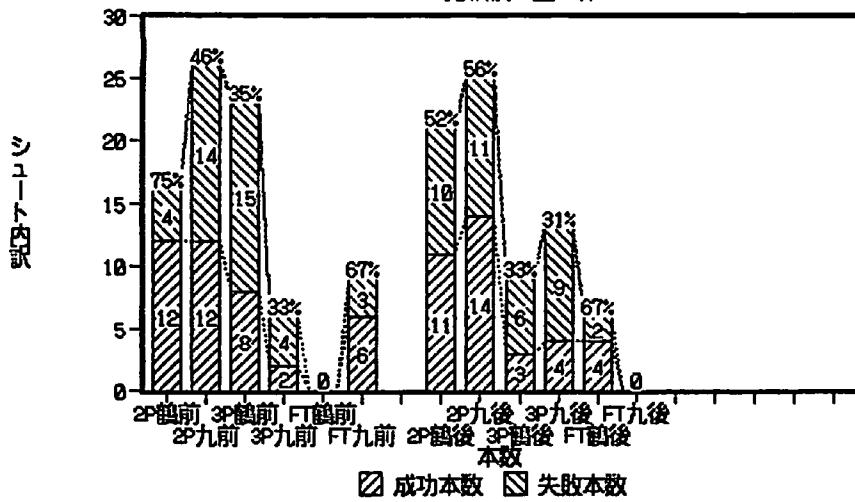
— 鶴鳴 …… 清和



H8九州春季決勝
得点推移

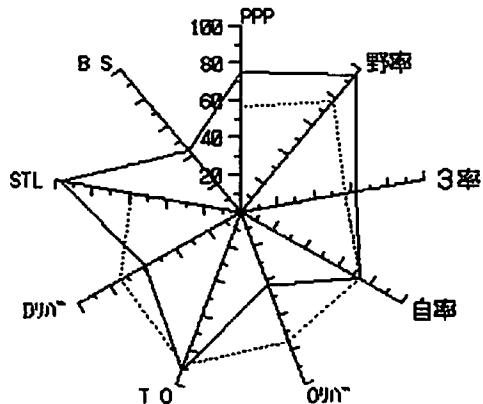


H8九州春季決勝
シュート比較積み重ね棒



H8九州春季決勝

レーベンチャート



— 鶴鳴 …… 九州女学院

